

# 図書館 だより

No.322

発行・編集：市立飯山図書館  
長野県飯山市大字飯山 1421 番地  
電話：0269-62-1118  
URL：http://tosho.city.iiyama.nagano.jp  
2006年(平成18年)1月15日発行

## 開館時間と休館日

〈開館時間〉火～金 9:30～18:00  
土・日 9:30～17:00  
〈休日〉月曜日・祝祭日・年末年始

## 休館日カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
1月	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
2月	29	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18

■の日は休館です。

## らいぶらりいブックレビュー

こんなものもあります

旬の本・話題の本・意外な本



読んであげたいおはなし  
松谷みよ子の民話  
下(筑摩書屋)

しっぺい太郎や猿蟹、牛方と山んぼなど、なつかしい民話が季節ごとに集められた本です。上巻には春と夏、下巻には秋と冬のお話が載っています。雪の降る寒い夜は家族で民話などいかがでしょうか。

## 心をつなぐ読みきかせ

読みきかせサポーターステップアップ講座を  
開催しました



△講師の越高一夫先生

昨年12月11日、心をつなぐ読みきかせサポーターステップアップ講座を開催しました。学校や保育園などで、子どもたちに読みきかせ活動をしている方、家でお孫さんに絵本を読み聞かせている方など、約30名が参加しました。講師は、松本市で絵本専

後半には、代表者数名への実技指導もありました。実技を行った代表者のみならず、出席者全員が食い入るように先生の助言に耳を傾けました。

子どもたちが自発的に本を読むための手助けをする読みきかせ活動について、「時々、外部のボランティアが来て読みきかせるのもいい機会であるが、やはり日常的な積み重ねが重要。最終的には生活をともにしている学校の先生が本気になつて、毎日、クラス全員が共有できるお話を読んであげなければ子どもは進んで本を読むようにはならない」とのことでした。

基本的な技術として、「いい声を出すために、腹筋を鍛えること、読み手は大きな動作をせずに黒子に徹すること、読みかせる本

は最低7回は読んでおき、ページには折り目をつけてめくりやすくしておくこと、決してつばなど指につけてページをめぐることをないやうに…」

受講者から、「昔話は『昔、昔おじいさんとおばあさんが…』というフレーズから始まるが、なぜ『お父さん、お母さん』ではないのか？なぜ時代が特定されないのか？』という質問が出ると、「父母のような身近な存在が出てきたり『何年前』などと時代が特定されたりすると、現実に戻されてしまうから。現実の生活が厳しい人たちがほど、空想の『お話の世界』で楽しまなければ生きていけなかったのだ」と説明がありました。

先生のリクエストにより、受講生として参加していた語り部の栗岩保子さんが素語りを披露する場面もありました。とても楽しく、充実した講座となりました。



△「雪女」の話をお話した栗岩保子さん

## 【参加者の声】

読みきかせステップアップ講座を受講して  
清水 清子

はじめに越高先生は、「おはなし会」を楽しもうというので、5冊の絵本を読んでくださいました。しかけ絵本で一緒に歌うことから始まり、絵本を読みすめながら聞き手も返事をしたり、しりとりを考えたたり、心が開放されたところで、12月にふさわしいクリスマスや雪のおはなしと続きました。いつもは読み聞かせの側の私ですが、今日は聞き手になり、おはなしにワクワクしたり、絵を楽しんだり、読んでもらう楽しさを実感しました。そして、

読み手と一緒に「楽しいね」って思える空気、一体感、満足感、このひとときが子どもたちにとって大切な時間であったかというのをあらためて考えました。子どもたちへの読みきかせは、責任の重ささえ感じますが、いい本を選び、子どもたちと一緒に「おはなしの世界を楽しんでいけたら」と思っています。



△実技指導を受けている清水清子さん

## クリスマスおはなし会を開催しました

12月25日のクリスマスお話会には大人子ども合わせて約60人が参加しました。

大きな絵本「すてきな3にんぐみ」や、ペーパーサート「3びきのやぎのらがらどん」、わらべうたの「ぼいぼいたいそう」や「もちっこやいて」を交え、最後に「サンタクロースの5人兄弟」というパネルシアターを、みんなで歌いながら楽しみました。そしてなんと会場にサンタクロースが現れて、プレゼントをくれました。みんなニコニコでした。



おはなし会の最後に、サンタさんといっしょに記念撮影しました

図書館からのお話のプレゼント、楽しんでもらえたかな。

## シリーズ わたしの「おすすめの本」紹介します



今月は太田にお住まいの市ノ瀬正人さんから、おすすめの本を紹介いただきました。

私の図書館利用は普通のひとと一寸違って、専らリクエストによって読みたい本を注文している。最近読んだのは、藤原咲子著の、「父への恋文」「母への詫言状」（いずれも山と溪谷社発行）である。著者の父母はあの有名な新田次郎と藤原ていである。「流れる星は生きていく」（藤原てい著）は、女の身で38度線を3人の子どもを連れて越える、言語に絶する苦難の逃避行を書いたベストセラーである。

末娘の咲子は逃避行の途中生まれてまだ1か月だったため、母は2人の兄弟を助けるためにこの子は死んでも仕方ないと思っていた。そのことが咲子の心に突き刺さって悉く反発し憎悪しようしても母と打ち解けることができなかった。母に対する娘の心の変遷が克明に描かれている。

「雁と雁の子 父一水上勉との日々」窪島誠一郎著（平凡社発行 著者は無言館館長）は、自分を捨てた父への心の葛藤を息子の立場で描いているごく最近発刊された著書である。両方とも長野県に關係がある本として、また、母と娘・父と息子と対比して、判読してみたいかがでしよう。

## 親子の絵本講座 参加者募集

絵本の読みきかせを通じて、親子のコミュニケーションを図り、親子のあたたかなふれあいの時間を持ちませんか。

「絵本がいいのは分かるけど、どんな本を読んであげたらいいの？どんなふうに読んであげたらいいの？」など疑問をお持ちの方！同じくらいの子どもを持ち、同じ悩みを抱えている保護者の方たちと一緒に「絵本」について学びませんか。また、遊びを通じて子どもの成長を促す、昔ながらの子育ての知恵「わらべうた」も交えながら司書が楽しくお話します。絵本講座に参加して、親子の楽しい絵本タイムをお過ごしください。

- 日時 2月14日、21日、28日  
午前10時30分～11時30分
- 会場 市立飯山図書館
- 参加費 無料
- 定員 12組（定員になり次第締め切ります。申込みはお早めに）
- 対象 2歳以上のお子さんと保護者  
3日間の講座を受講できる方



夏の絵本講座の様子

〈参加者の声〉  
・いつも同じ絵本を読んでほしいという理由が分かったので、これからはゆつくりと子どもに接していけそうです。  
・自分自身、懐かしい絵本や、子どもにちょうどいいかなと思ったりする絵本に知り合せて、これから先の子育ての楽しみが増えたような気がします。